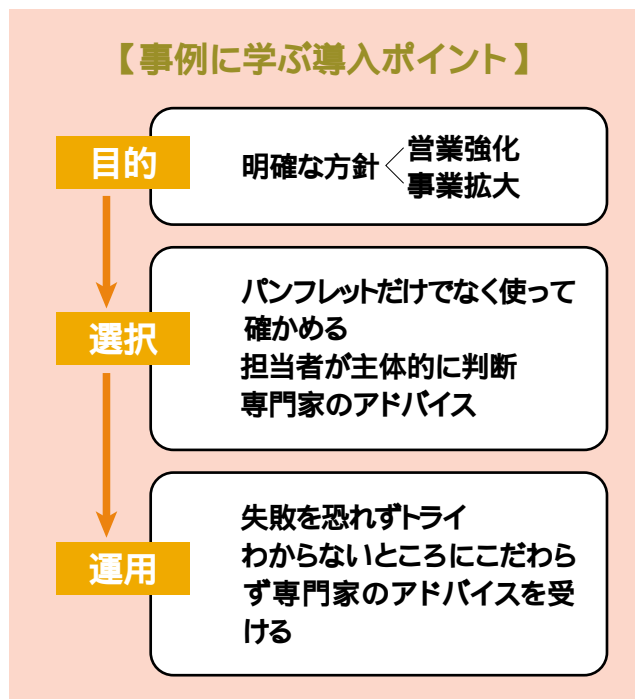


事例

ソフトの活用で
何が変わったか

小規模企業の業務改革

アスパクリエイト(東京都文京区)の会計ソフト導入記



「経理の仕事は初めてだったのでとても不安でした。でも、弥生会計を使うことで、会計と販売の業務を同時にこなせるようになりました。」

「この語るのにはアスパクリエイトで経理を担当する中川麻江さんである。」

企業向け視聴覚教材の製造・販売を行う同社は、2002年7月の

設立とほぼ同時に、会計ソフトの導入を検討した。それは同社の古川量巳社長が、社員の力はなるべく営業に回せるよう、中川さん一人で販売管理と経理の両方をこなすことを計画したためだった。また、今後の事業拡大に備えて情報化は不可欠の考えもあつたのである。

ソフトの選択は担当者である中川さんに任せられた。中川さんが重視したのは、価格の安さと使いやすさ。店頭でいくつかソフトを見たが、実際に使い勝手を試してから最終決断したという。

ソフト習得に要した時間は6時間ほど。あとは日々の業務をこなしながら、専門家の助言を受けつつ覚えていったそうだ。「弥生会計とは相性がよかったです」と、説明書を読まなくてもたいていの操作は直感的にわかりました」と使いやすさを評価している。

古川社長が目標とした「一人で二業務」は会計ソフトの導入で見事に達成された。一月下旬からの繁忙期も中川さん一人で乗り切れる見込みとのことだ。今後は給与計算などにも積極的にソフトウェアを導入していきたいという。

「失敗を恐れずトライ わからないところにこだわらず 専門家のアドバイスを受ける」

この事例からは、目的の明確化と担当者自身が使い勝手を実感してから選択することの大切さが見えてくる。そして、さらに大事なことは、失敗を恐れず、とにかく使ってみること。コンピュータは、手書きの帳簿

と同じく弥生会計を導入したある飲食店では、データさえ入っていれば、キーボードを二押しするだけで決算書が簡単に出来ることに感動したという。また、経理業務にかかる時間を3分の1に短縮した運送会社の例もある。

時間の創出。会計ソフト導入の効果は、まず、ここに現れると言っています。

「弥生会計」を使ってみよう

セッティングから入力の実際まで



パッケージソフトの実際を、弥生会計を例にとり、誌面上でシミュレーションしてみよう。
 まずは、ソフトをパソコン上で使えるようにセットし、自社に合わせた設定を行うところから始める。

1 パッケージを購入したら

さあ、始めよう

弥生会計 買って来たぞ

ニュース
12月6日発売の「弥生会計03」では、インストールがさらに易しくなります

パソコンにCD-ROMをセット!

法人? 個人? 業種別は?

弥生会計をパソコンで使えるようにセットする。会社で決めている方式をパソコンに覚えさせる

2 消費税などの規則を設定する

「次へ」をクリック

カチ!

期首は4月1日だから「20020401」と

わが社のやり方は... 理解してね!

ハイ!

ハイ! カチ!

あとはまかせ

規則だけ教えていてね!

このような対話式画面を「ウィザード」と言います

消費税の計算方法などは画面の問いに答えて選ぶだけで設定できる

うちは税抜きで処理しているから、「税抜」の黒丸がついていればOK!

3 さあ、使おう

クイックナビゲータ

帳簿を棚から取り出すのと同じ感覚!

使いたい帳簿を選ぶだけ!

今までは... 棚から取って 帳簿に記入

難しいのは やだよ

大丈夫!

なんだ 似てるな

現金出納帳

伝票

私は現金出納帳から

僕は振替伝票だ

VS

落ちついてよ!

入力はどっちでもOKだからね

どちらから入力しても取引は保存。関連帳簿に反映

ココヨ方式もあるよ

自動計算

損益計算書

損益計算書が見たいな

はいどうぞ

おっ、早いな

損益計算書や貸借対照表も画面のメニューを選ぶだけだから **カンタン**

使える状態にしたら、あとは日々の取引を入力していくだけだ。弥生会計には手作業のときに棚から帳簿を取り出していたのと同じような感覚で使える、「クイックナビゲータ」という画面がある。ここから「現金出納帳」など、普段よく使っている帳簿を選んで入力していく。もちろん、「振替伝票」などの画面から入力してもよい。いずれにしても入力は1回で終了だ。

損益計算書等の集計表が欲しいときは、そのメニューを選ぶだけで、計算済みの表が画面に表示される。もし、使い方がわからなくなった場合でも、購入後の1ヶ月間(プロフェッショナル版は3ヶ月間)は無料で電話サポートが受けられる。それ以降のサポート契約は年間3万円になるが、法令改正等に対応した新しいプログラムや後継製品を、無償で入手できるという特典がある。使いやすさに加え、長く使い続けるための体制も整っているので安心だ。

本記事は2回連載の第1回目です。次号1月2日発行には便利な機能と経営に役立つ機能をご紹介します。